

Dr. チェック!

知っておきたい病気のはなし

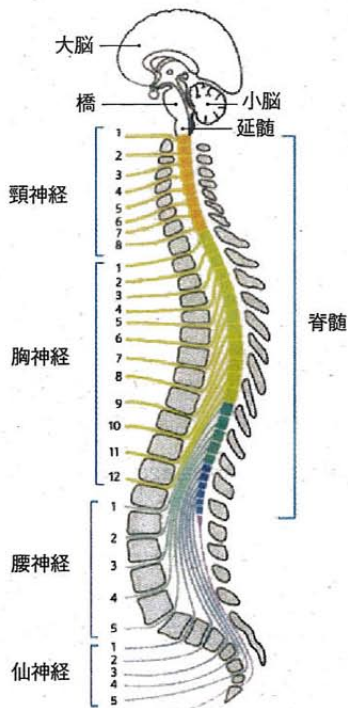


第6回

歩行障害

「歩きにくい」「手足がしびれる」などは
神経障害かもしれません。
専門医に診てもらいましょう

神経には「脳」と「脊髄」の中樞神経があり、それらから出ている末梢神経があります。歩行障害やしびれなどの症状の多くは、中樞神経や末梢神経が何らかの原因で障害されて起こってきます。「適切な治療で生活の質(QOL)を維持向上してほしい」という森迫脳神経外科の小坂恭彦副院長に歩行障害などについて教えていただきました。



神経の障害としては、パーキンソン病をはじめとする神経変性疾患や、脳卒中がよく知られています。脳卒中の予防としては、生活習慣病である高血圧や糖尿病、高脂血症などの予防が大切です。

神経が圧迫されて起こる障害としては、例えば、右側の手・足の麻痺

高年齢者が多い「足の動きがスムーズではない」「手足が痛む」「しびれる」「麻痺する」などの原因は、加齢によるものと、中樞神経・末梢神経の障害が考えられます。加齢によるものは、「使わない」「ためや」「使いすぎ」で起こる筋肉や骨・関節の衰えがあります。この場合は、軽いウォーキングや筋肉トレーニングである程度は改善できると思います。しかし、無理をすると転倒などの危険性が増えます。自分の体力を知り、十分注意しておこなうことが大切です。

四股などにしびれや麻痺、そして歩行障害など日常生活動作で異常を感じれば、脳神経外科などの専門医を受診し、適切な治療でQOLを維持・向上してほしいと思います。

最初に神経の仕組みを知ってください。中樞神経は脳と脳から連続して、腰椎あたりまで頭蓋骨とつながるトンネル状になった脊椎骨の中を通る脊髄です。脳と脊髄から出ているのが末梢神経の「脳神経」と「脊髄神経」になります。

そのうち、脊髄神経は頸椎や胸椎、腰椎などから31対も出ており、手足など全身を巡っています。これらは、脳から指令を受ける運動神経や皮膚や筋肉からの刺激を、脊髄を経由して脳に伝える感覚神経の役割を果たしています。

皆さんは、歩行障害があると受診される診療科で悩まれることが多いと思います。受診科では整形外科や脳神経外科、神経内科、脊椎椎骨外科が考えられます。運動器障害の歩行障害は整形外科と思う人が多くいますが、手足や体幹のほとんどを支配しているのが「神経」です。神経は脳神経外科の領域でもあります。当院では、診察室に入られる患者の姿を重要視しています。歩き方や姿勢などを見て障害のある部位や疾患を考え、そのあと問診、検査などで原因を確定していきます。脳神経外科は顕微鏡手術を生かした高度な脳手術を行います。脊髄・脊椎疾患の治療は脳の治療に通じるものがあります。

では、転倒などの外傷により左側に硬膜下血腫の疑いがありますし、両側の足の運動障害では胸腰椎などの脊髄疾患もあります。また、少し歩くと足が痛くて歩けなくなり、休むとまた歩ける「間欠性跛行」という歩行障害があります。この原因の一つに脊髄を守る脊柱管が狭くなり、神経が圧迫されて起こる脊柱管狭窄症があります。治療のためには、その原因を見極めることが重要です。

今月の先生



森迫脳神経外科
小坂 恭彦 (おさか・やすひこ) 副院長

森迫脳神経外科副院長。平成4年、京都府立医科大学卒。大阪脳神経外科病院や京都第二赤十字病院の脳神経外科医長などを経て現職。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会や日本脳神経血管内治療学会の専門医。日本脊髄外科学会認定医でもある。

医療法人社団 森迫脳神経外科
兵庫県宝塚市平井5の1の8
☎0797・82・1116